



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして



「私たちのアトリエ」
ゆたか作業所 りらく作業現場
※紹介が7ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 第5回 ベトナム海外視察・研修 P2～3
- ▶ 3回目の成人式を迎えました！ P9～12

2025年11月15日 毎月1回15日発行 一部200円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358

ゆたか福祉会

検索



ゆたか福祉会HP



公式 Xアカウント



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

2025
9.7~9.14

第5回

ベトナム海外視察・研修

2019年から始まったベトナム視察・研修は、今回で5回目となります。今年もアドバイザーの佐野教授の協力のもと、9月7日～14日の1週間、愛光園、名古屋ライトハウス、コープあいちの皆さんと13名でベトナムのフエ、ダナンへ行きました。

今回のこの視察・研修は、大きく3つの目的がありました。

- ①フエ科学大学との連携協定に基づく内容の推進
- ・同大学を訪問し、共同で行っているプログラム（日本の介護・日本語を学び、私たち4法人で働くプログラム）の推進を協議する。
- ・同大学主催の国際セミナーに参加し、地域の福祉関係者との意見交流をする。また、ベトナムの福

祉に関連する事業所等を訪れ、プログラム生が帰ったあと活躍できる、フエでの福祉事業づくりに向けての学びとする。

化・価値観に触れるとともに、上記①②を体験することで、この取り組みについて学び、理解を深め、共につくる意識を育む機会とする。

- ②パートナーシップ協定を結んでいる Enjoyable English（以下E・E）メンバーと交流を深めるとともに、今後行う新たな取り組み（職員向けの英会話・ベトナム語レッスン、仲間たち向けのベトナムツアー）推進について、打ち合わせ・検討をする。
- ③若手職員はホームステイも行い、ベトナムの同じ年代の方々の生活・文

- 「これまでの経過と目的」ゆたか福祉会鈴木顧問
- ・「現在のベトナムの福祉状況と今後への期待」佐野教授・法政大学教授・ゆたか福祉会アドバイザー
- 渡航の為の説明会 3回
- E・Eによる、ベトナム語レッスン（1時間×5回）：若手メンバーのみ参加した皆さんの報告を紹介します。

2025 ベトナム視察・研修 行程

- 9/7 中部国際空港→フエへ
- 9/8
 - ・フエ精神病院、
 - ・聴覚障害者の雇用をしている雑貨店等
 - ・E.E オリエンテーション
- 9/9
 - ・フエ科学大学 国際セミナー
 - ・障害のある女性の就労施設、
 - ・障害者職業訓練事業所
- 9/10
 - ・自閉症の児童の教育センター
 - ・フエ外国語大学教授宅（日本語教育センター）
- 9/11 フエ→ダナンへ
- 9/12
 - ・私立の特別支援学校
 - ・聴覚障害者が働くカフェ&障害者のクラフト工房
 - ・障害者が働く割り箸工場
- 9/13 観光、ダナン→中部国際空港到着（14 早朝）

理事長 後藤 強

7年ぶりのベトナム訪問。前回と同様、車道を縦横に走り回る無数のバイクに圧倒されつつ、急速に発展するベトナムのエネルギーを感じた1週間でした。たくさんの関連団体の訪問のなかで最大のミッションは、フエ科学大学との間で実施している人材育成プログラムについての協議・調整でした。このプログラムに参加し、これまで25人が来日。ゆたか福祉会をはじめ、連携4団体での就労につながりま

した。しかしベトナム人材への海外からの需要は高く、彼らの志向も世界に向けて広がっており、このプログラムへ参加する人員の確保も、簡単ではなくなってきました。



フエ科学大学国際セミナーで質問に答える後藤理事長

新たな提案が出されました。現在4年生の前半期に実施している同プログラムを、来年度から3・4年の2か年を使ったプログラムに拡充したいというものです。

思いがけない嬉しい提案ですが、プログラムを変更することによる日本側の役割や負担も当然増えることが想定されます。大学側の積極的な姿勢を最大限に受け止めつつ、私たちができることを4団体で早急に協議していくことが、当面する大きな課題になっていきます。



ゆたか希望の家 畔柳 ほのか

私は、障害

がある方も暮らしたり働いたりすることのできる環境の必要性、情熱を持った支援の大切さを学びました。また、日本で働きたい学生との交流と、私自身の海外での戸惑いや経験から、ゆたか福祉会で働く海外の方の思いや強さを感じました。



フエ外国語大学（日本語学科）の学生と交流

研修では、障害のある方や貧困問題を抱える方が働くための施設、障害のある子どもが通う施設など、様々な施設に伺いました。どの施設も、目の前にいる方のために何かできることはないか考え、「なんとかしたい」という強い思いがありました。

制度や前例のない中で切り拓いていくことの困難さと、それを乗り越えていく行動力、熱い思いに感銘をうけました。改めて、「どんなに重い障害がある方も、幸せに暮らすことができる環境を整え続けなければならない」「最善の支援を追い求め続ける組織でなければならぬ」と思いました。

研修を通して支援について考えることができ、とても貴重な経験をすることができました。

ゆたか生活支援事業所なかがわ 片岡 由加梨

ベトナム研修に参加してみて、「様々な施設を訪問することが出来てよかったな」と感じました。研修に行く前に佐野先生の講義で、「ベトナムの方は食欲に学ぶ意識があり、自信を持っている」という言葉が印象に残っていたのですが、「福祉が良くなるにはどうすればいいですか？」と、こちらが問われる場面がたくさんあり、その姿勢は自身も学びたいと感じました。

またホームステイも体験し、文化や言葉も違うなかで、びっくりしたこともしばしばありました。うまく言葉が伝わらないもどかしさなども初めて経験しました。「もっとうまく伝えられたら」と感じる場面もあり、ちょっとした後悔もありますが「やってみたいと分からない気持ちだったな」と改めて感じています。

今回の研修を通して、日本にいたら分からない文化、出会うことが出来ない人たちと関わることが出来てよかったと感じました。「知ること」の大切さも学びました。



ホームステイへ！

地域生活支援拠点事業所まーぶる 齋藤 翔貴

今回のベトナム研修では、フエ科学大学や医療短期大学、日本語学校などを訪問し現地の学生や教員と交流しました。また、デイサービスや作業所にも足を運び、実際の活動の様子を見学しました。

そこでは国からの支援がごくわずかであるため、障害者の方々が自ら絵を描いたり陶芸をしたり、カフェを開いたりして運営を支えている姿がありました。その工夫と努力にとても心打たれました。一方で、海外から多額の寄付を受け、大規模な施設を建てている例もあり、支援の形が多様であることを学びました。



職業訓練事業所で説明を聴く3人

今回の研修を通じ、ベトナムにおける障害者支援の現状を知るとともに、限られた環境の中でも前向きに活動が続ける姿から、多くの気づきと学びを得ることが出来ました。様々な新しい体験を得て来て、自身もいろいろな経験を積んでいきたいと思いました。



フエ医療短期大学で、学生へプレゼンをするリンと向

ゆたか生活支援事業所みなみ チャウ ティ ミーリン

今年も通訳として研修に同行しました。訪問先では専門的な内容も多く難しい場面もありましたが、昨年の経験を活かしながら対応しました。また、私自身も日本の現場で支援をしているので、その経験も活かすことができていると思います。

初めて医療短期大学でプログラムを紹介し、多くの学生が関心を持ってくれたことが嬉しかったです。今後も知識を深め、ベトナムの皆さんが安心して学び働けるよう支援していきたいと思っています。



フエ市内の訪問先では、年々私たちへのもてなしがより丁寧になっていることを実感しています。これは、これまでのプログラム生の受け入れに対して、高い評価をいただいている証であり、大変嬉しく思います。同時に、私たちがフエでの福祉事業づくりに協力することへの期待の表れでもあると感じています。

ベトナム・フエにおける私たちの連携は、これまでの成果を踏まえ、いよいよ新たなステージへと進もうとしています。

法人本部 向久美子

暮らしの中に彩りを

9/10

水

9/11

木

南障会 一泊研修旅行 in 静岡



～交流を深めた2日間～

南区障害者関係団体連絡会（南障会）の恒例行事である一泊研修旅行が、静岡を巡るコースで開催されました。今年は14団体66名（内ゆたか福祉会関係者47名）が参加し、交流を深めました。

初日は、大井川鐵道の人気者「きかんしゃトーマス号」に乗車。客車が古く、車いすで参加された方たちの乗降も心配されましたが、皆の連携で無事にクリアー！車窓からのどかな風景を楽しむことができました。

宿泊先のホテルでは、太平洋を望む温泉で疲れを癒やし、夕食交流会では豪華な海の幸を堪能。クイズ大会や2次会のカラオケで盛り上がり、団体や事業所を超えた夜の交流を満喫しました。

2日目は、「日本平夢テラス」で壮大な富士山の絶景を堪能した後、「掛川花鳥園」へ。様々な鳥たちのショーを拍手と笑いで楽しんだり、色鮮やかなインコのエサやり体験では、笑いながら楽しむ方、一方で急に飛んでくるインコに驚き表情がこわばってしまう方など、参加者の間で大きく感想が分かれる思い出深い体験となりました。

40年以上の歴史を持つこの研修旅行は、事業所・団体間の関わりが薄れる傾向にある中で、様々な立場の方たちが交流を深め合える大変貴重な機会です。笑顔溢れる充実した2日間となりました。

トライズ 佐藤 正章（南障会事務局長）



昨年と同メンバーで再び参加！～機関車トーマスに乗ったよ！～

慣れた感じで、道中のカラオケは大盛り上がり。「かさでら」の仲間はみんなカラオケが大好き！マイクが手放せません。そして楽しみにしていたトーマス機関車とご対面！「昔のアニメで見たことあるよ！」と嬉しそうに話をして、ここでも大変盛り上がっていました。実際に乗ってみると、「ガタン！」と、乗り慣れない動きに思わず「うおおお！」と驚きの声が、それぞれの席から聞こえてきました。普段とは違う経験に、いつもは見られない仲間の表情がたくさん見られました。

宴会場でのクイズ大会では、景品を手に入れようと全員が必死！司会の方が盛り上げてくださったおかげで、最後まで飽きずに楽しめました。残念ながら「かさでら」のみなさんは惜しくも景品を逃してしまいました。次回に期待です！

2日目は、富士山が見える日本平テラスへ。あいにくの天気でしたが、私たちを迎えてくれたかのように富士山の頭が「ニョキッ」と顔を出してくれました。みんなで「奇跡だね」と語り合い、次なる舞台「掛川花鳥園」へ。鳥が手や肩にたくさん集まってきて、自然と笑顔になる仲間、こわばる仲間それぞれでした。

南障会旅行は、事業所外以外の方とも一緒に過ごせるため、仲間、職員にとって、とてもいい刺激となり、新しい発見が生まれます。また来年もみんなで参加できたらと思います。

ゆたか生活支援事業所かさでら 片桐 由麻



能登半島被災地支援

ゆたか生活支援事業所みなみ 牛田 万里絵

第55クール(6/15～)

6月中旬、JDFの活動に参加しました。道路の崩落や土砂崩れなど、震災の爪痕を目の当たりにし、大自然の恐ろしさに胸が震えました。特に印象に残ったのは、五島屋のビルや輪島朝市の跡地です。ニュースで見た現場が何事もなかったかのように更地になり、震災前の写真とのギャップに胸が痛みました。支援先の職員の方のお話を聞くうちに、遠い出来事のように感じていたことが、急に自分のことのように思えました。

この気持ちを忘れないこと。自分の目で見た能登の現状、耳で聞いた被災者の声を周囲に伝え、関心を持ってもらうこと。それが私にできる小さな一歩だと思っています。自分の日常に戻っても、遠くから能登に思いを寄せ続けます。



▲輪島朝市跡地

ゆたか作業所 清水 瑞己 第61クール(7/27～)

今回初めて被災地支援に参加させていただきました。実際に現地に入り、崩れた斜面や倒壊した建物、公費解体が進み更地になった場所を見ると、当たり前にあった暮らしがなくなってしまうことの怖さを感じました。

私は、輪島市にある事業所の支援に入らせていただきました。利用者の方や職員の方から「来てくれてありがとう」や、一緒に活動する中でたくさんの笑顔を見ることができ、嬉しく思いました。また、仮設住宅での暮らしの大変さや震災時のことについて話してくださり、被災された方の現状や想いを知ることができました。

今回の経験を支援に活かしていきながら、今後も能登の支援活動に参加し、少しでも力になりたいと思っています。



▲傾いた電柱

グループホーム宝南の家 安永 章一

第63クール(8/17～)

1年半以上もたっているのに、いまだに復旧があまりされていないことにびっくりしました。私の担当は送迎で、支援センターを朝出発して、約60km先の仮設住宅にいる方を迎え、約40km先の作業所まで送りました。作業後は、仮設住宅に送るという毎日でした。道路は隆起や陥没があり、復旧が進んでいないことを身に染みて感じました。

現地の方が「能登はほったらかしにされている」「完全に復旧はできないし、何年かかるかわからない」「人口も減少し20年後には過疎地域になると思う」という言葉が忘れられません。貴重な体験をさせて頂き、「支援活動は引き続きやるべきだ」と思いました。

ゆたか生活支援事業所尾張 大田 哲嗣 第65クール(8/31～)

8月31日から第65クールで参加。今回は障害当事者の方も参加され、当事者だからこそ感じる視点や寄り添い方があり、その重要性を学びました。

1年半たった今でも、復興の流れの遅さがあり、日常が営まれているところと、災害の爪痕がそのまま残っている非日常性が混在していました。奥能登ほど爪痕が深く、「まだまだ復興に程遠い」と感じました。

私は、通院支援や清掃に取り組みましたが、日常的な社会資源不足・人材不足・移動手段の厳しさなどがありました。今まで隠れていた社会問題が、度重なる災害により表出したのだといえます。現地の方々の熱い想いを聴き、引き続き能登支援に取り組むことと、「愛知で、地域で何ができるのか」を考えていきたいと思いました。

ねがいや要望を 市や国に届けよう

仲間の声を聴く会開催

先日、「地域で暮らす仲間の願い・要望交流会」が行われました。仲間や職員、ご家族合わせて30名近くの方にご参加いただきました。

昨年度の名古屋市との懇談、仲間の願いアンケートの結果の報告があり、参加者の願いや要望の交流を行うという内容で進行されました。

仲間の皆さんからは、「給料をたくさんほしい」「3級や4級の人も年金がもらえるようにしてほしい」「家賃補助を増やしてほしい」「職員やヘルパーさんを増やしてほしい」「バスの本数を増やしてほしい」等々、たくさんの願いや要望が出されました。

その他にも、「旅行が楽しみ」「希望をもって努力を続けていく」という前向きな言葉などもありました。

ご家族の方からは、「仲間の姿を見ていると、幸せに暮らせているのではないかと思う」という温かいご意見や、「家族も一緒に」になって、要望を行政に挙げ

ていくことができれば…」という心強い言葉もいただきました。仲間の皆さんが「どんな思いや考えをもって生活をされているのか」ということを実際に聞くことができる貴重な場に参加させていただいたと感じました。改めて、一人一人の思いに耳を傾けることの大切さと、要望として留めてしまうのではなく、それを声に出し、実現に向けて動いていくということが大切であることを改めて感じました。

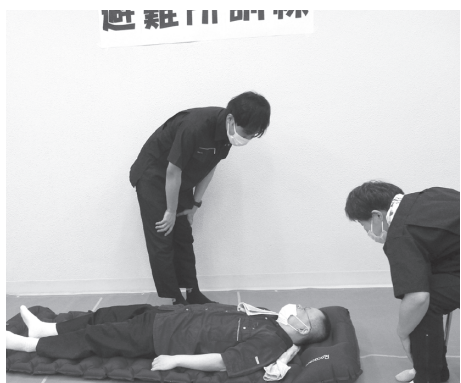
ゆたか生活支援事業所みなみ
小林みのり



リサイクル港作業所

防災の

取り組み



「ん～ このマットいい寝ごちさ」

今年度は「災害を考える体験」を4回計画しています。6月は指定福祉避難所であるリサイクル港作業所で「宿泊訓練」、8月は「非常食体験」を行いました。

「宿泊訓練」では、2階の休憩室と食堂の2部屋を寝室に設定。利用者人数分を区割りしたビニールシートに横になり、3分間消灯するという初めての試みでした。イメージを共有し、「こうすればいい」と分かったことは大きな一歩でした。

また「非常食訓練」では、備蓄のα米や缶詰等を使い、災害時に近いメニューを提供しました。利用者はα米の調理に関わり、



非常食の献立表を見ながら
「カレーだって！おいしそうだね」

通常と災害時の食事の違いについて考える機会となりました。2回の体験を終え、通常と同様「できることは自分たちで」のレベルに引き上げる訓練の重要さに気づきました。

凝固剤も食材も寝る準備もしていますが、いざという時に慌てずに行動していくことが大事になります。こうした体験から出た課題を明確にし、「トイレの凝固剤はどのように使うか」「汚物はどこに置くか」「食事の配膳はどのようにやるか」「ゴミはどこに置くか」「臭い対策はどうするか」等を決めておけば迷いません。

リサイクル港作業所は海抜マイナス地帯です。液状化や津波があれば移動困難になり、1階は川になると想定し、訓練を続けていきます。

所長 萩原千秋



「私たちのアトリエ」

ゆたか作業所 りらく作業現場

表紙の作者紹介

りらく作業現場では、月に一回、臨床美術の講師を招いて『アトリエ』を行っています。各月ごとのテーマに沿って、「どんな色にしようか」「どうやって描こうか」「こうするともっと良いかも…」と考え、作る過程を大切に取り組んでいます。

黒い用紙に思い思いの線を描き、時には丸や点々も加えていきます。その用紙をハサミで切り、色画用紙に貼っていきます。まるでパズルのようです。

それぞれに個性的な作品でみんな満足気です。作品はゆたか作業所内に飾ってあるので、来所の際にはぜひ見てみてくださいね！

星屋 政司
當間 弘子

(9月19日～10月6日
手続き分)

賛助会員新規加入者
更新者ご芳名一覧

中部ウォーカソン

一般寄附 (10月)



9月

- 4日(木) 「グループホーム平手」(仮称)
地鎮祭 / 第3回口頭弁論
- 6日(土) 通所事業所合同研修
- 7日(日) ベトナム視察研修 (～13日)
- 8日(月) 事業運営推進会議
- 9日(火) 保護者連合会研修会
- 10日(水) AI活用学習会
/ 法人安全衛生委員会
- 12日(金) 新管理職合同研修
- 16日(火) 広報・ホームページ編集委員会
- 19日(金) フォローアップ研修
- 21日(日) あかつきまつり
- 24日(水) 副所長会議
- 26日(金) 食と健康推進委員会
- 29日(月) 権利擁護・虐待防止委員会
/ 研修部会議

広報・514号

2025年11月号(2025年11月15日発行)

定価1部200円

法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口6,000円、

賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・あいち銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

※初めてお振込をいただく方は、お手数ですが
法人本部(052-698-7356)へご連絡ください。

お詫びと訂正

広報誌10月号P11飾り野線下の文章で“一番長く「ゆたか」で働く職員”という表現に誤りがありました。訂正しお詫び致します。大変申し訳ありませんでした。
(正) 二番目に (誤) 一番

2026

カレンダー販売の取り組み始まる!



来年のカレンダー壁掛版の3月は
つゆはし作案所ほかほか班の作品
「11にん 11いろのしやぼんだまアート」
が採用されました!!



今年もカレンダー販売の時期を迎え、各事業所では
10月後半から仲間たちや保護者の皆さんが中心となり、
カレンダー販売の取り組みがスタートしました。

このカレンダー販売の取り組みは、今から40数年前の年末、「仲間たちのボーナス資金を作り出そう!」と始まりました。その後もこの取り組みは引き継がれ、現在も法人の自主財源づくりの活動として、多くの皆さんにご協力を頂きながら取り組む大切な活動となっています。

多くの皆様のご協力をお願いします。

お問い合わせはこちら

☎ 052-698-7356

法人本部 二村まで

*チラシ・注文書などの送付をさせていただきます。 *各施設でも取り扱っております。

私たち

3回目の成人式を 迎えました！

2012年11月号からスタートした「3回目の成人式」のコーナー。最初に登場したのは「ゆたか作業所」の仲間の皆さんでした。ホームで暮らす5名の皆さん（加藤春子さん、坂野辰江さん、柴田紀子さん、加藤真澄さん、近藤光子さん）と、「ゆたかのホームに入りたい」と94歳の母が願う磯部和明さんでした。

タイトルは「人生はNOW！」～一人一人の人生に寄り添いながら～。そしてこの連載は、今回で14回目を迎えます。改めて「人生はNOW！」です！



細川 利光さん

キラリンとーぷ

細川さんは1998年10月、第2ゆたか希望の家が開所された時から生活されています。日中活動はクリーニング班。カゴ拭きやシーツたたみの仕事を、責任を持って頑張ってくれています。

季節ごとの行事や取り組みを、とても楽しみにされている細川さん。これまで遊園地に行き、観覧車に乗ったり、フレンチレストランでランチを楽しんだり、うれしそうな笑顔を見せてくれています。

先日の外出ではカラオケに行き、大好きな小林旭の歌をたくさん歌って楽しんできました。これからもいろいろな所に出かけましょうね。

2月で還暦を迎えられました。これからもキラリンとーぷの仲間と一緒に、楽しい時間を過ごしていただきたいです。



みのり共同作業所 & ゆたか生活支援事業所みなみ

西澤 由紀子さん

西澤さんは1986年から39年間、「みのり」で仲間とともにたくさん時間を過ごしてきました。笑顔がとてもチャーミングな女性です。

8月22日、作業所2階現場のみなさんでお祝いの会を開きました。赤い頭巾とちゃんちゃんこを身につけ、職員や仲間たちから握手やお祝いの言葉をもらい、作業所での39年間の振り返るスライドショーや動画を楽しみました。

「かわいい！」「若いねー」といった声があちこちから聞こえ、会場は笑顔いっぱいになりました。みんなからの温かいメッセージと、思い出がつまったアルバムや花束をいただき、最後はおいしいケーキで締めくくりました。

新しいスタートです。これからも一緒に、楽しい時間を過ごしていきましょう。



2006年に「ホームみのり」へ入居され、2022年に「グループホームエール」へ転居されました。ホームでの生活を始めて、もうすぐ20年を迎えようとしています。

8月に還暦を迎えられ、ちゃんちゃんこを着てホームのみなさんでお祝いをしました。お休みの日は音楽を聴いたり、テレビを見たりしてゆっくりと過ごされています。月に1回のヘルパーさんとの外出も楽しまれています。

旅行や誕生日会、季節の行事など、ホームの取り組みにも参加され、「楽しかった？」とお聞きすると「ハイ！」と返事をしてくださいます。言葉は少なくとも、表情やしぐさで楽しい気持ちを伝えてくださいます。

これからも健康で、笑顔あふれる毎日を過ごしていただけたらと思います。

成人式を迎えました! ✨

✨ みのり共同作業所 & ゆたか生活支援事業所みなみ

谷内 正彦さん



お姉様と

1984年6月から作業所を利用されて、今年の9月で還暦を迎えられました。いつもニコニコ笑顔で、周りを明るくしてくださる谷内さん。

現場での作業では毎日の納品や仕入れを担当されて、暑い日でも寒い日でも職員と一緒に商品運びを頑張っていました。穏やかで一生懸命な姿に、私たちもたくさん元気をもらっています。

谷内さんの好きなことは童謡を聞くことや、色々なCDを集めることです。作業所に通所される際もポケットやカバンの中にCDを入れて、楽しそうな様子で通所されています。

これからもその素敵な笑顔で、私たちを癒してくださいね。谷内さんの毎日が幸せいっぱいでありますように…。本当におめでとうございます。

36歳で第3八光荘に入所され、第2八光荘の利用を経て、2015年10月に元塩ホームに入所。9月にめでたく還暦を迎えられました。

ホームではCDを聴いたり、休日の余暇外出や取り組みを楽しみにしながら過ごされています。取り組みのお知らせを掲示すると、真っ先に気づいて嬉しそうに指さしをされます。旅行のしおりは枕元に置いて、ボロボロになるまで読み込むほど、イベントが大好きな谷内さんです。

写真をお部屋に飾ることがお好きなので、還暦のお祝いでは赤いちゃんちゃんこを着て、写真館でお姉さんと写真撮影をしました。カメラのフラッシュが眩しくて、なかなか眼が開けられなかったことも良い思い出です。

いつも素敵な笑顔でみんなを和ませてくれる谷内さん。これからもお元気で、楽しい毎日をお過ごしください。



✨ あかつき共同作業所

山中 文人さん

文人さんは、2011年にあかつき共同作業所に入所されました。サクラ班で、自動車部品輸送の際に必要な緩衝材を作る仕事や、自動車部品の下請け仕事をしています。仕事ぶりは、とても丁寧で確実です。責任感も強く、不良を出すこともありません。



一緒にあかつきに通うお兄様と

現場の中では、他の仲間たちの元へ資材を運んであげたり、完成品の検品に入ったりと、自分の製造だけでなく臨機応変に動き、活躍されています。

とても真面目で自分にも他人にも厳しい文人さん。そんな文人さんですが、昼休みには気の置けないサクラ班の仲間達とテレビを見ながら、おしゃべりが弾み、顔がほころびます。これからもお元気で、みんなと楽しく過ごして下さいね。



私たち

3回目の



浅井 宣明さん

なるみ作業所 & ゆたか生活支援事業所みどり

19歳で「ゆたか作業所」に入所し、27歳で「なるみ作業所」に入所した浅井さん。1990年には「ひまわりホーム」の開所と同時に入居。33年に渡り、作業所と共に過ごされてきました。

いつも明るく、ニコニコ笑顔の浅井さんですが、「仕事」となると真剣そのもの。黙々と手を動かし、仕事に向き合う情熱と姿勢は、誰にも負けません。作業の合間には、新しい利用者さんに優しく声をかけたり、他の班に出向いて力仕事を引き受けたり…。その包容力と優しさで、みんなから慕われています。

還暦のお祝い会では、ちゃんちゃんこを身にまとい、皆さんから祝福されました。記念の贈り物は名入れの折りたたみ傘。その傘を差して、毎日元気に登所されています。

いつまでも変わらず、これからも作業所を明るく照らしてください!!



ひまわりホームから、毎日なるみ作業所へ通勤しています。ホームでは、一緒に生活している仲間に対して、とても優しい宣明さんです。

お出かけが大好きで、移動するバスに乗って外の景色を眺めるお出かけは、一番の楽しみです。月に一度のヘルパーさんとの余暇外出も、市バスに乗ってお出かけする事が多いです。運転手さんの後ろの席に座る事も大きなポイントです。11月にあるホームからの日帰り旅行と一泊旅行も楽しみです。

これからも、健康でダンディーな宣明さんでいて下さい。

～ご家族様からお言葉をいただいています～

「人生の節目ですね。仕事もホームの生活も、楽しく過ごしている事が嬉しく、幸せに思っています。」

濱崎 千登世さん

あかつき共同作業所



濱崎さんは1991年に「あかつき」に入所されました。歌を歌うのが大好きで、昭和歌謡曲からアニメ、Jポップス、CMソングと幅広くレパートリーをお持ちです。とてもお上手で、きれいな歌声を作業所でもホームでも響かせてくれています。突然歌い出す歌に、みんなノリノリになったり、しっとり聞き惚れたりしています。

みんな濱崎さんの歌声が大好きです。なんでも歌えるので、思わずリクエストしてしまいがちですが、受け付けてくれません(笑)。あくまで自分の中から湧き出てくる曲を歌いたいようです。

60歳を過ぎ、ご自分で「おばあさん」と言いますが、そんなことはありませんよ。これからもお元気で、「あかつき」で楽しくお過ごし下さい。



私たち

3回目の成人式を 迎えました!



山田 和江さん

つゆはし作業所
& ゆたか生活支援事業所なかがわ

山田さんがつゆはし作業所に入職されてから23年が経ちました。作業所で石鹸を作るために油回収をしていたことや、喫茶店や銭湯にみんなで行ったこと、これまで大変だったこと、楽しかったことを、いきいきとした表情で新しく入った仲間や職員に話してくださいます。

現在、編み物やミシンを使った仕事は他の仲間のお手本となり、優しく時には厳しく教えてくださる姿はとても頼もしいです。4役さんの仕事では、「みんなが仲良く、明るく楽しい作業所」という言葉をモットーにしている山田さん。なかまのことを考えて、行事の計画をすすめられています。他にも手先が器用なことを活かし、ブラシ^{注1}やサンゲツ^{注2}など様々な仕事にも励まれています。

これからもお肌ツルツルで、キュートな山田さんらしく過ごしてくださいね。

注1 ブラシ→ブラシの毛材を、はかりを使用して規定の重さ(規定の本数)にする仕事

注2 サンゲツ→壁材や床材の見本帳からサンプル部分をはがす作業



山田さんは、1995年3月から「つゆはし板倉ホーム(旧:つゆはし生活ホーム仲間の家)」を利用されており、今年6月に還暦を迎えました。

ホームでは編み物やブロック細工をされたり、大好きな野球観戦をしながら過ごされています。他の仲間にも声掛けをしたり、背中を押したりと、世話焼きな一面もあります。

60歳の誕生日会では「大阪に泊りで旅行に行ってみたい」「見たことないものを見たい」と抱負を語っておられました。

まだまだこの先やりたいことがたくさんあり、楽しみにされている様子が伺えます。これからも山田さんらしさを大切にしながら、ホームでの生活を送っていただけたらと思います。

傘寿を迎えました!

キラリンとーぷ

永井 美佐子さん

80歳「傘寿」のお祝いをしました!

永井美佐子さんは1980年、35歳でゆたか希望の家に入所。1994年からは山の家(上矢作分場)を利用され、1998年53歳で第2ゆたか希望の家、現在のキラリンとーぷに入所されました。

9月の誕生日会で「傘寿」のお祝いを行うと、とても喜ばれていました。80歳とは思えない程の記憶力と集中力をお持ちで、塗り絵は時間を忘れてしまう程です。職員とのおしゃべりも大好きで、行事の写真を見ながら思い出を振り返っています。散歩の時は好きな花を眺めながら、職員と一緒に写真を撮っています。

先日の買い物では洋服を自分で選んで購入され、とても嬉しそうでした。80歳を迎え、「花を見て写真を撮りたい」「刺身や鰻が食べたい」「温泉も行きたいな」と話す姿は、とても生き生きとされています。

